

2017年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	明治維新から150年 浮世絵にみる 子どもたちの文明開化			担当者名	学芸係 村瀬可奈、和南城愛理			
会期	2017年10月5日～11月23日			開催日数	41日間			
協賛・後援・協力	特別協力:公文教育研究会、玉川大学教育博物館、企画協力:マンガスティン							
巡回館	足利市立美術館							
展覧会概要	明治時代の浮世絵には、文明開化によって社会そのものが変化するなか、力いっぱい生きる子どもたちの姿が描かれている。本展では、文明開化の新風と江戸の面影のはざままで遊び、学ぶ子どもたちの姿を約300点の浮世絵と資料を通して見つめなおした。							
ねらい・対象	近年関心の高まっている「子ども浮世絵」だが、明治時代に焦点を当てた大規模な企画は今回が初めてである。2018年に明治維新から150年を迎えることを記念し、「文明開化の音がする」、「学校の誕生と教材になった浮世絵」、「子どもたちへの眼差し—周延・春汀・昇雲」、「子どもの遊び大図鑑」の4章構成で、明治の子ども浮世絵の全容を明らかにすることを目的とした。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	ワークショップ	10月14日(土)	一緒にあそんで、明治にタイムスリップ	NPO法人 子ども広場あそべこどもたち	100人			
	おはなし会	10月21日(土)、11月7日(火)	美術館でおはなし会—絵本と語りの時間	おはなし はずの実	計36人			
	摺の実演	10月28日(土)	浮世絵の技に触れる—摺の実演とレクチャー	株式会社 渡邊木版美術館	52人			
	ワークショップ	11月4日(土)	折って作ろう おもちゃ絵ワークショップ	COCHAE	53人			
	家族鑑賞会	11月15日(水)	0歳からの美術館★家族鑑賞会	NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会 富田めぐみ氏	41人			
	講演会	11月11日(土)	記念講演会「浮世絵に描かれた母と子」	國學院大學教授 藤澤紫氏	65人			
	作品解説	11月12日(日)	館長によるスペシャルトーク	当館館長 村田哲朗	30人			
	作品解説	10月27日(金)、11月19日(日)	担当学芸員によるギャラリートーク	当館学芸員 村瀬可奈	計42人			
観覧料	一般	65歳以上	大・高生					
	800 円	400 円	400 円					
観覧者数 (現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	2,352 人	2,216 人	4,568 人	3,260 人	673 人	326 人	309 人	0 人
	目標値			7,960 人				
主な収入 (現在)	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	1,185 千円		672 千円		9 千円		千円	
事業経費	【主な展覧会開催経費】 ・講師謝礼(手話通訳含む) 55千円 ・協力謝礼 200千円 ・消耗品費(図録購入費) 2,484千円 ・ディスプレイ作成等業務委託料 969千円 ・展覧会ポスター等作成委託料 1,214千円 ・広告宣伝委託料 737千円 ・巡回展負担金 5,000千円							計 10,659 千円

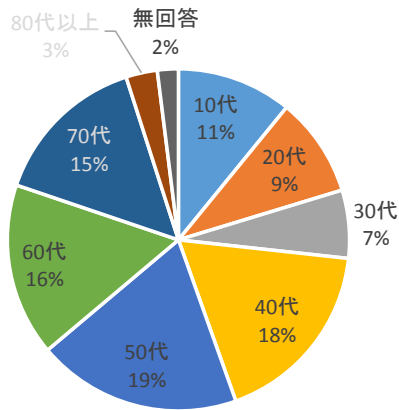
<p>主な広報・取材等の講評</p>	<p>・「楽しさ伝える企画展」タウンニュース10月5日号 ・「浮世絵に描かれた明治の子どもたち」東京新聞10月24日号(多摩版) ・「最新の育児法伝える」神奈川新聞11月6日号(子育て面)</p>							
<p>アンケート結果</p>	<p>回収数</p>	<p>回収率</p>	<p>市民率</p>	<p>リピーター率</p>	<p>満足度(とても良かったと良かったの率)</p>			
	<p>208 件</p>	<p>4.6 %</p>	<p>35 %</p>	<p>60 %</p>	<p>企画の内容</p>	<p>展示作品</p>	<p>展示の仕方等</p>	
	<p>主なご意見 別紙のとおり。</p>							
<p>反省点と改善方法</p>	<p>予備調査</p>	<p>2015年夏に監修者および企画会社より展覧会の原案の提案があった。館内での検討の末、開催が決まり、2016年3月頃から監修者、企画会社、巡回先の担当学芸員との打合せを本格的に開始。2016年7月から作品借用先の機関や個人への調査を実施した。</p>						
	<p>作品選択</p>	<p>調査に伴い作品選択を行い、当初の候補作品から3分の1ほどに絞り込んだ。時代背景を反映した作品、これまでに展覧会で紹介されたことのない作品、作品の状態等を作品選択の基準として選定した。</p>						
	<p>図録作成</p>	<p>子どもから大人まで手にとりやすいサイズを目指し、B5変形判、216頁と、浮世絵展としては小ぶりに図録に仕上がった。作品図版・解説に加え、論文3本、コラム2本、年表、参考文献、そして特別附録として折って遊べる頁を作成するなど、内容は充実したものとなった。デザインは広報印刷物および会場ディスプレイと共通のデザイナーに依頼し、統一感を図った。しかしながら図録の作成にあたっては、専門の編集者・校正者に依頼せず主催者側で取り仕切ったこと、またデザイナーが展覧会の図録作成の経験がなかったことなど、いくつかの要因が重なりスケジュール的に厳しい局面があった。今後は余裕を持って作成できるように状況を整えたい。</p>						
	<p>ディスプレイ</p>	<p>看板やキャプションなど通常のディスプレイに加え、記念撮影パネルや触って遊べるコーナーを作成した。さらに、より多くの方に展覧会へ足を運んでもらえるよう、エントランスホールの階段等に、装飾や誘導パネルを設置した。触って遊べるコーナーでは、影絵、ゾートロップ、着せ替え人形、双六など、明治時代の子どもたちの遊びを実際に体験することで、展覧会への理解が深められるよう工夫し、好評を得ることができた。</p>						
	<p>広報</p>	<p>通常の浮世絵展では来館の少ない若年層へのアピールを狙い、カラフルでポップな広報宣伝物を作成した。展覧会の約2ヶ月前にプレスリリースを発送したほか、駅や電車内にポスターを掲示し、市内の全小中学生へのチラシの配布を行った。しかしながら、こうした広報効果は想定よりも低く、来館者数へは繋がらなかった。今後は、導入予定のSNSも活用しながら、広報のあり方を考える必要がある。と同時に、若年層のみならず、幅広い年齢層への広報活動を継続して行うことで、恒常的に多くの方に来館してもらえるよう努めたい。</p>						
	<p>イベント</p>	<p>講演会や摺りの実演のほか、おはなし会やワークショップなど、子どもから大人まで気軽に足を運んでもらえるイベントを複数企画した。特に「0歳からの美術館★家族鑑賞会」は、乳幼児と保護者をターゲットとした開館以来初めての企画であった。イベントをきっかけとして版画美術館へ初めて来館したという親子も多く、またこうした子どもを対象とした企画への要望が多数聞かれた。今後も、市民のニーズに応えられるイベントの実施や、本展を通して知り合った市内の団体・施設等との連携を、引き続き模索していきたい。</p>						
	<p>作品輸送</p>	<p>今回は、少数の借用先からまとまった数のコレクションを拝借したため、比較的短期間で輸送が行われた。巡回先の担当者とは分担し、約240点を搬入・展示した。今後は2018年夏に開催予定の足利会場への輸送が予定されている。</p>						
<p>展示撤去</p>	<p>10月2日(月)から3日間で展示作業が行われた。展示数が多く、なかでも展示に時間のかかる書籍が多数あったため、最終日は時間を大幅に超過してしまった。係内の他の職員、巡回先の担当者の協力により作業自体はスムーズに進んだものの、今後は進行状況によって、係内で早めに協力を依頼するなど気をつけたい。</p>							
<p>その他特記事項</p>	<p>イベントについて:展覧会の趣旨に合わせて多種多様なイベントをほぼ毎週末実施した。小さな子ども連れの家族や親子に来館していただけたこと、さらに「子ども」というキーワードを通じて、市内の団体や施設との連携ができたことは今後に繋がる本展の大きな成果であった。会期前半は悪天候が続く、思うように入場者数が伸びなかったが、こうした面において数字には表れない収穫を得ることができた。</p> <p>写真撮影について:展示室内は、一部の所蔵作品と遊べるコーナーに限り撮影可とした。結果的に、シャッター音による鑑賞の妨げ等の苦情はなく、大きなトラブルは発生しなかったものの、SNS等での拡散は減少した。今後も当館にとつての最善な方法を模索したい。</p> <p>日英表記について:HPでは英語の詳細ページを作成したが、今回は作品点数が多く、また予算の都合上翻訳家への依頼が叶わなかったため、展示室内の表示は日本語表記のみとなった。今後は出来る限り英語表記を入れられるよう、計画的に進めていきたい。</p>							

「明治維新から150年 浮世絵にみる 子どもたちの文明開化」展
アンケート集計結果

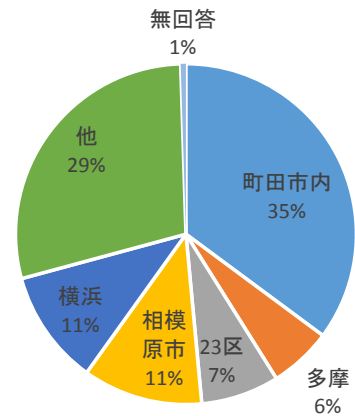
開催期間：2017年10月5日（土）～11月23日（木祝）

回答者数： 208 人（総入館者数：4,568人 アンケート回収率： 4.6%）

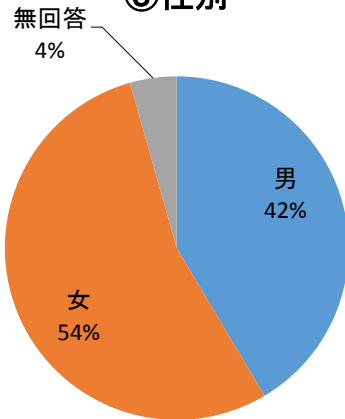
① 年齢層



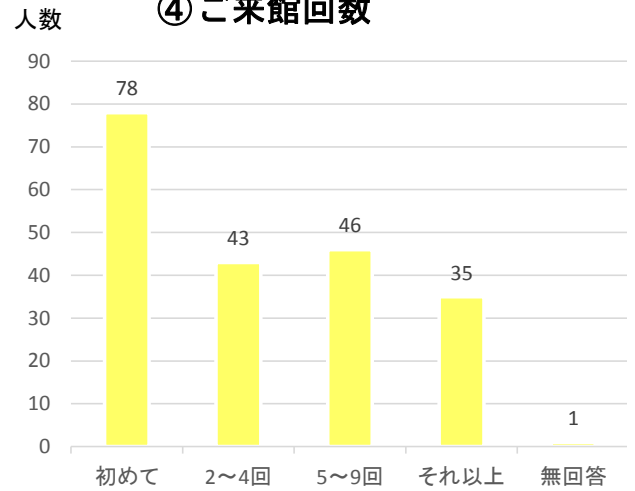
② お住まい



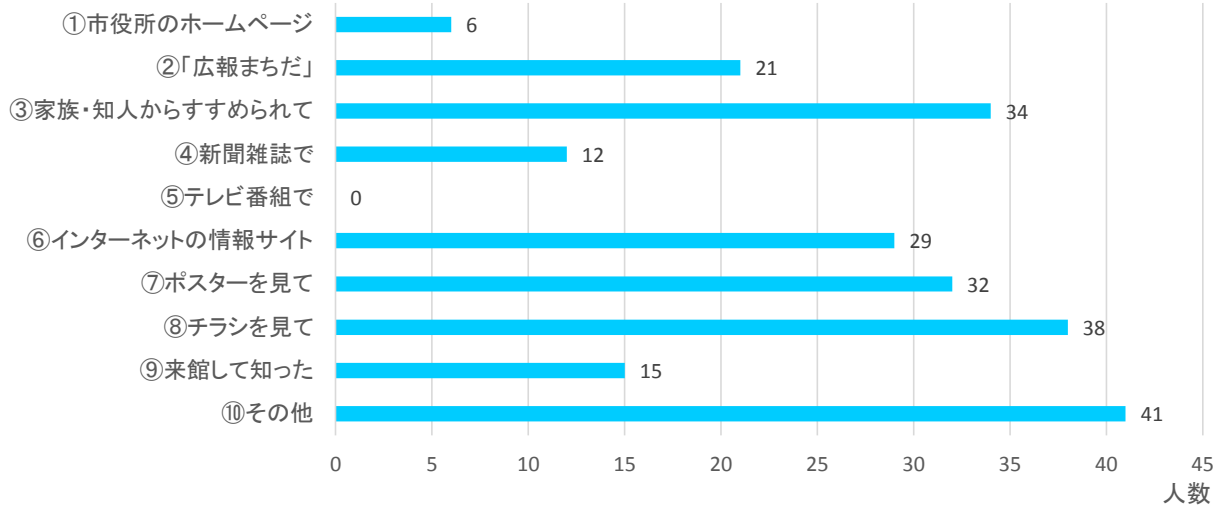
③ 性別



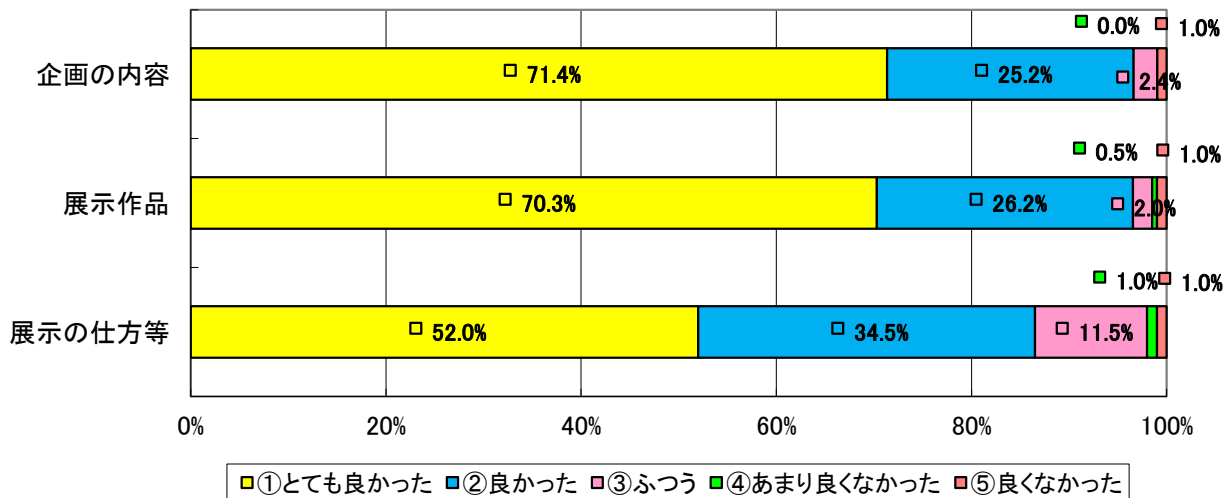
④ ご来館回数



⑤ 展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

- ◆作品数が多く見ごたえがあった。 ◆作品の状態がよく色彩がきれい。 ◆見やすかった。
- ◆版画美術館でしか見られない企画内容がとても良い。
- ◆影絵など昔の遊びが体験できるのがよかった。 ◆子どもが楽しめてよかった。
- ◆150年前の様子がよく理解できた。 ◆今の私たちとのつながりが見えて興味深かった。
- ◆明治の浮世絵は初めて見たが、子どもたちの様子がわかってとてもよかった。
- ◆文明開化、明治維新に興味がある。 ◆市内の玉川大学からの出展がよかった。
- ◆周延、春汀、昇雲の三大絵師の作品が素晴らしかった。
- ◆今後も独自の切り口で、浮世絵の魅力を伝える展示を期待している。
- ◆ポスターや写真撮影コーナーのデザインがポップで楽しめた。

- ◆作品の位置が低い。 ◆キャプションの文字を大きくしてほしい。
- ◆毎回展示室が暗いのが残念。今回は特に暗かった。
- ◆企画展示室1の天井へ壁面から「ミシミシ」と音が鳴っていて気になった。

「①年齢層」については年齢に大きな偏りがなく、子どもから大人まで楽しんでもらえる企画内容だったと思われる。近年の浮世絵展に比べると10～20代の回答者数が増えたことが顕著で、市内の小中学校の児童・生徒全員へ配布したことがある程度の増加につながったのだろう。

「④ご来館回数」では、「はじめて」が最も多かった。会期中のイベントでも、当館にはじめて来館したという声が多く聞かれた。今後もSNSの導入などで広く広報するとともに、リピーターを増やす仕組みも取り入れたい。

「⑤展覧会情報の入手」では、「家族・知人からすすめられて」が「その他」、「チラシ」に続いて多く、なかでも学校・授業（小学校から大学まで）を挙げる声が多かった。当館の近隣には大学が多く、授業の課題のための利用もよく見られる。今後も、大学の授業や課題で活用してもらうなど、より焦点を絞った広報活動を考えたい。

明治時代の、かつ子どもの浮世絵にテーマを絞ったため、珍しい企画内容に対して好意的な声が多く聞かれた。しかしながら、来館者数は当初の見込みを下回り、SNS上でのコメントが増えたのも会期末であった。「明治維新から150年」の記念展ではあったが、2018年に入りようやくメディアでも明治150年を取り上げられるようになり、2017年の時点では盛り上がりが見られなかったのも残念であった。こうした珍しい切り口の展覧会を行う一方で、より広く一般に親しみのあるテーマの展覧会もバランスよく行うことで、浮世絵の魅力を発信し、当館の特色を押し出していきたい。